

( 図中の言葉 )

ト  
一 云いだすからには

理りが非ひであると

立たてもらにや

死しぬ覚かく悟こ

ト  
一 〽どうせやけどよ斯しなるからは

角かくへ  
エ 〽親おや兄弟けうだいにまで見み放はなされ

あかの他人たにんの傾けい城せいにかあい

がられる筈はずはない

ト  
一 〽人の力ちからはかりはせぬ

ト  
一 〽ほどにひかされついうち解とけ

今いまとなつてはこいの  
いぢ

ト  
一 〽さきを思おもへばこつちが立たず

心こころニツつに身みはひとつ

〽人に異あ見けんもしかねぬ主ぬしが

人ひとに云いはれるこのしだら

〽もとを糺たせば他人たにんと他人たにん

あらぬ立たすりや君ぬしのはぢ

” 昔きみのほくのなかながら中なかも

しぢぢななへせしつてむかひ

” 世たうじの時じ時じ時じはなをとりぬ

よじも命いのち長ながら入い徳とくをとね

” じつは一いちびなかにしつちやんと

思おもへど心こころが跡あとやそき

日ひ野のやおくに

おこし

に

負まては

外ぐわい聞ぶんが

わるいよ

桐とうやのお秋あき

おあんじで

ないよ

村むら田たのお新あたら

おんな

だと

思おもつて

甘あまく見

られては

たまら

ないよ

哥あは沢さわおたか

うでのつとく

だけは

けいこを  
するのさ

三よしの官太  
一ばんべん強  
して

師将を一ツ

やつくけてへ  
ものだ

のづの三  
おらッ

ちが斯

毎日押寄

てもひるまぬ

所が強敵サ

三河や浦吉

師将

が稽古の

激しいに恐れたぜ

よし井や忠(名標のみ)  
黒江やの多吉

皆さんどうです

谷口の庄

弟子中

では一等サ

( 図中の額の文字 )

か  
ご  
し  
ま  
は  
ん  
し  
ん  
せ  
い  
こ  
う  
と  
く  
た  
い  
し  
や  
う  
え  
い  
ゆ  
う